

糖尿病・内分泌内科

概要

部長：松岡直樹

スタッフ：部長1名 医長3名（R5年度）

専攻医：当院プログラム1名 他院プログラム3名（半年2名 通年1名：予定）

年間入院患者数：約300名（COVID-19でR2～R4年は入院制限時期あり）

一日外来患者数：約100名

【参加予定の学会および研究会】

内分泌学会、糖尿病学会、内科学会、甲状腺学会、内分泌研究会、甲状腺研究会

【認定教育施設】

日本糖尿病学会認定教育施設

日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設

日本甲状腺学会認定専門医施設

特徴

1. 糖尿病教育入院はクリニカルパスで行っている。カンファレンスにはコメディカルも参加してチーム医療に徹している。
2. 意識障害・昏睡（高血糖・低血糖）等の救急患者も多い。
3. 他科入院患者へも血糖コントロール、ホルモン調整に対応する。
4. 内分泌疾患がバラエティに富んでおり、専門医修得に向け十分な経験ができる。
5. 甲状腺癌¹³¹I治療は年間約100例行い、他施設からの依頼も多数受け入れている。
6. NETのRI治療も開始した。

一般目標

全ての糖尿病内分泌疾患の診断および治療（生活指導を含む）ができるようになるための診療能力を身につける。数多い外来患者や救急患者にも対応できるようになる。研究成果を学会および論文で発表する。

行動目標

- 1年目： 糖尿病・内分泌疾患に関する知識および検査技術を習得する。
入院患者の診察を確実に行うことができる。
救急患者の対応ができる。
内科専門医取得に必要な他分野の症例を経験する。
- 2年目： 1年間連携病院での研修をする。
- 3年目： 専門外来（糖尿病）患者の診察をスムーズに行うことができる。
臨床経験を深め、研修を完成させる。
後輩医師の指導ができる。
研究成果の発表を行う。

各年度での研修内容は状況に応じて個別に相談の上決定します。

専門医制度が変更となる場合や COVID-19 のような感染症の蔓延が続くような場合は、研修予定内容が変更となる場合があります

達成目標

- 1. 必須疾患に関して3年間でほぼ全ての疾患の主治医（もしくは担当医）になる。
- 2. 学会・研究会発表は毎年2回以上、論文発表は3年間に1編以上執筆する。
- 3. 3年目に外来は週1回行う。外来患者数1日30名程度診察する。
- 4. 主治医として患者を担当し初期研修医の指導を行う。
- 5. 糖尿病内分泌領域の各種救急患者は1人で対応できるようになる。
- 6. その他
糖尿病教室の講師を務める。
クリニカルパスの作成・修正・バリエーション評価に積極的に参加する。

週間スケジュール

月曜日	内科カンファレンス（月1回を予定 R3.4年はWeb）
火曜日	甲状腺穿刺細胞診、内分泌カンファレンス（回診はCOVID-19で中止）
水曜日	糖尿病カンファレンス（回診はCOVID-19で中止）
木曜日	甲状腺エコー、抄読会もしくは学会・研究会発表予演会等
その他	糖尿病教室（月1回COVID-19で中止中）、 甲状腺カンファレンス（月1回）

専門研修プログラム

神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラムは、当院ホームページをご参照ください。

URL : http://chuo.kcho.jp/recruit/late_resident

見学等問い合わせ先

松岡 直樹：nmatsuoka@kcho.jp